

科目名		施工方法Ⅰ			
担当教員		町田 実		実務授業の有無	有
対象学科	電気電子工学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	3	時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 電気理論の基本、計算の仕方、関係法令を理る。(電気工事全般の理解を深める) 2. 配線、工事の施工方法の基本を理解する。(ここがメインとなる) 3、 第2種電気工事士筆記試験【電気基礎理論】対策 4、座学→模擬試験→解答と解説を繰り返し行い、合格基準の到達を目指す。				
学習目標 (到達目標)	* 第2種電気工事士筆記試験の各科目が、合格レベルになるよう習得を目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①第1種電気工事士筆記試験すい〜っと合格 (オーム社) ②第2種電気工事士筆記試験模範解答集 電気書院 ほかにPDFファイルなど				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	イントロダクション 電気工事とは			方法：写真及びボードにて解説 達成目標：電気工事の概要を理解する 準備学習：教科書の予習	
2	施工方法の基礎 内線配線・引込口配線・電動機配線・接地線			方法：写真及びボードにて解説 達成目標：練習問題合格点の獲得 準備学習：教科書の予習	
3	施設場所と配線工事方法 環境に応じた配線工事方法の設定方法			方法：写真及びボードにて解説 達成目標：練習問題合格点の獲得 準備学習：教科書の予習	
4	器具などの取付方法 コード・キャプタイヤケーブル・コンセント・点滅器等の取付方法			方法：教科書・映像・プリントで解説 達成目標：練習問題合格点の獲得 準備学習：教科書の予習	
5	特殊場所と特殊施設 粉塵の多い場所・可燃性ガスの存在する場所 危険物などの存在場所			方法：教科書・映像・プリントで解説 達成目標：練習問題合格点の獲得 準備学習：教科書の予習	
6	一般電気工作物の電気設備について 引込線・照明設備・コンセント設備等			方法：教科書・映像・プリントで解説 達成目標：練習問題合格点の獲得 準備学習：教科書の予習	
7	自家用電気工作物の電気設備について 受電設備以下の想定される電気設備の特殊施工方法・注意点			方法：教科書・映像・プリントで解説 達成目標：練習問題合格点の獲得 準備学習：教科書の予習	
8	筆記試験受験にあたって			方法：理論解説と問題集の練習と解答・解説 達成目標：練習問題合格点の獲得 準備学習：教科書の予習	
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
定期試験	確認問題	平常点		項目毎に、模擬問題を行うことで習得状況の確認をする。又、繰り返し行う事で重要なポイントを十分に理解させる。合格基準点に到達するため、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。	
90 %	5 %	5 %	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	電気工事士・施工管理技士として30年間電気工事の現場に係わっていた。第一種電気工事士				